

## 鳥取県岩美郡岩美町

### 新井における祝言のあいさつ

神部 宏泰

#### はじめに

1. 対象地の地理的環境：鳥取県の北東隅に位置する。東は、兵庫県浜坂町と境を接しており、西は、福部を隔てて鳥取市に近接している。
2. 対象地の社会的経済的環境：山間集落に農業域があり、海浜集落に漁業域がある。また、駅周辺には商業域がある。が、鳥取市その他への通勤者も多く、専業の農・漁業者は少ない。
3. 生業：農業、漁業、それに商業が若干あるが、いずれも専業は少なく通勤者が多い。
4. 交通：JR山陰本線が通っており、岩美駅は、鳥取駅から三つめである。所用時間約25分。
5. 人口：15700人。新井（ニイ）は150人である。
6. 調査年月日：1991年3月2日 12・30～14・10
7. 方言話者：河上きみこ 大正10年7月6日生（69歳）
8. 調査者：神部宏泰 調査場所：河上家の座敷
9. 調査方法：質問法

#### I 結納授受のあいさつ

1. 仲人が、新婦の家に結納を持参した時、座敷で、その家の主人（新婦の父親）に向かってするあいさつ

○オメデトー ゴザイマス。キョーワ オヒガラガ ヨロシユ  
ゴザイマシテ ○○サンノ トコノ ツカイトシマシテ ユイノ  
ーオ ジサンシマシタノデ オオサメネガイマス。おめでとうご  
ざいます。今日はお日柄がよろしゅうございまして、○○さん  
のおうちのおつかいとしまして、結納を持参しましたので、お  
納め願います。（老男→初老男 試演）〈改まり・上品・共通  
語的〉

補注 仲人は、新婦の家に結納を持参すると、訪問のあいさつをし

ないで、そのまま座敷に通リ、結納の飾りつけをする。その間、両親と新婦とは、傍らに座ってひかえている。この段階までに、あいさつやことばを交わさないのは、忌みことばや失言などが不用意に出てくるのを恐れるためであると、この話者は説明する。結納の飾りつけが終わったところで、双方向きあって座り、まず仲人から口上を述べる。

2. その家の主人（新婦の父親）が、仲人に応えてするあいさつ  
○ドーモ キョーワ タイヤク ゴクローサマデ ゴザイマシタ。スエナガク オココロザシオ オサメサセテ イタダキマス。どうも今日は大役ご苦勞さんでございました。末永くお志を納めさせていただきます。（初老男→老男 試演）〈改まり・上品・共通語的〉

3. その時の新婦のあいさつ  
○アリガトー ゴザイマス。ココロヨク ウケサセテ イタダキマス。ありがとうございます。快く受けさせていただきます。（青女→老男 試演）〈改まり・上品・共通語的〉

補注 父親のあいさつに続いて、新婦も、上のように述べることもある。

4. 仲人が帰る時の、父親のあいさつ  
○キョーワ タイヤク ゴクローサマデ ゴザイマシタ。コレワ ウチノ ココロモチデスカラ。今日は大役ご苦勞さまでございました。これは私のほうのお礼の気持ちですから。（初老男→老男 試演）〈改まり・上品・共通語的〉

補注 結納授受の後、簡単な酒肴を出す。これも短時間に終わる。終わったところで、父親は、結納金の一割程度の金を、別に用意した包みに入れ、仲人に渡して上のように述べる。

## II 嫁をもらう家の人へのお祝いのあいさつ

1. 嫁をもらうことが決まった家の人に、道で出会って、近所の人たちがする、お祝いのあいさつ

○コンド ニギヨク ナラレマスデスツテ ナー。オメデトー ゴザンス。今度、にぎやかになられるそうですねえ。おめでとうございます。（老女→初老女 試演）〈改まり・上待遇〉

○。○サンワ マー ヨメサン モラワレルソーデシテ ニギヤコ

一 ナラレマシテ オメデトー ゴザンス。○○さんは、まあ、お嫁さんをもらえるそうでございまして、にぎやかになられてまして、おめでとございます。（老女→初老女 試演）〈改まり・上待遇〉

2. 嫁をもらう家の人、上のあいさつに答えてするあいさつ

○アリガトー ゴザンス。ココロガケテ モラヨーリマシタケド  
キテ モラウ コトニ ナリマシテ ナー。マー カワイガッテ  
ツカンセー。ありがとうございます。〈いい嫁さんがみつかるよ  
うに〉こころがけてもらっていましたが、来てもらうこと  
になりましたねえ。まあ、かわいがってくださいませ。（初老  
女→老女 試演）〈改まり・上待遇〉

### III 嫁に出すことが決まった家の人へのお祝いのあいさつ

1. 嫁に出すことが決まった家の人に、近所の人たちがする、お祝いのあいさつ

○アンタゲニャー コンド ハナサレルデスダッテ ナ。サビシ  
ナラレマス ナー。あなたの家には、こんど〈娘さんを〉手放さ  
れるそうですね。さびしゅうなられますねえ。（初老女→同  
試演）〈やや改まり・上～中待遇〉

2. 嫁に出す家の人、そのあいさつに答えてするあいさつ

○マー セワニ ナリマシテ ナー。ダス コトン ナッテ マー  
↑ クツロギマシタ。まあ、お世話になりましたねえ。嫁にやること  
↓ になって、一安心しました。（初老女→同 試演）〈やや改ま  
り・上～中待遇〉

○ホンニ オヤトシチャー クツロガレマス ナー。まったく親と  
しては安堵されますねえ。（初老女→同 試演）〈やや改まり  
・上～中待遇〉

### IV 結婚式当日の、近所の人のおあいさつ

1.1 新郎の家に、お祝いを持参してのおあいさつ

○キキマスリャー コノタビ オタクモ ニギヤコー ナラエーソ  
ーデシテ オメデトー ゴザンス。コリャ マー ホンノ ウチ  
ノ ココロモチデスケー。ナンゾ コーテ クリャー ヨカッタ  
デスガ ヨー コーテ キマセンケー タビナイト コーテ ア

ゲテ ツカンセー。お聞きしますと、この度、お宅もにぎやかに  
なられるそうでした、おめでとうございます。これは、まあ、  
ほんの私どものお祝いの気持ちですから。何か買って来ればよ  
かったのですが、買って来ることができませんので、足袋でも  
買ってあげて下さいませ。(中女→初老女 試演) <改まり・  
上待遇>

補注 近所の人が、お祝いの包み金を持ってあいさつに来るのは、  
だいたい結婚式の当日の朝(または荷が入った後)である。早く  
から、うわさなどで知っていても、万一話しが壊れた場合のこ  
をおもんばかって、ぎりぎり確定するまで、正式のあいさつをひ  
かえるのが慣例という。このあいさつを玄関で受けるのは、お  
おむね母親であって、父親は、普通は出て来ない。また、あいさ  
つに来るほうも主婦である。

1.2 それに応えてのあいさつ

○スミマセナダ ナー。コンド マー キテ モラウ コトニ  
ナリマシテ ナー。マタ アイサツニ アルカセマスケド。マー  
カワイガッテ ツカンセー。すみませんでしたねえ。今度、まあ  
嫁に来てもらうことになりましたねえ。また、あいさつに歩か  
せませうけど。まあ、かわいがってくださいませ。(初老女→中  
女 試演) <改まり・上待遇>

2.1 新婦の家に、お祝いを持参してのあいさつ

○コンド 〇〇ニ イカレルゾーデシテ ナー。オメデトー ゴザ  
ンス。サビシ ナラレマス ナー。アノ ウワサー キートリマ  
シタケド ナー。トーガラ モッテ クルノワ イケント オモ  
イマシテ ナー。今度〇〇にお嫁に行かれるそうでしたねえ。お  
めでとうございます。さびしくなられますねえ。あの、うわさ  
は聞いていましたけどねえ。早くから<お祝いを>持って来る  
のはどうかと思ひましてねえ。(中女→初老女 試演) <改ま  
り・上待遇>

補注 この場合も、玄関であいさつを受けるのは、母親である。

2.2 それに応えてのあいさつ

○マー スミマセナダ ナー。セワニ ナットリマシタケド ダ  
ス コトニ ナリマシテ ナー。アリガトー ゴザンシタ。まあ  
すみませんでしたねえ。お世話になっていましたけど、嫁に出

すことになりましてねえ。ありがとうございました。(初老女  
→中女 試演) <改まり・上待遇>

2.3 新婦の門出を見送る、近所の人たちへのあいさつ

○スミマセン ナー。イソガシーノニ ヨー ミニ キテ ツカン  
↑  
シタ。すみませんねえ。忙しいのに、よく見に来てくださいまし  
た。(初老女→中女など 試演) <改まり・上待遇>

○オメデトー ゴザンス ナー。キョーワ イー テンキデ ヨー  
↓  
ゴザンシテ。イー ヨメサンデス ナー。おめでとうございます  
ねえ。今日はいい天気で、ようございました。いいお嫁さんで  
すねえ。(初老女→同 試演) <改まり・上待遇>

補注 新婦の門出を、近所の人たちが、大勢で、道端に並んで見送  
る。当家では、その人たちに菓子(せんべいなど)を配る。

V 結婚式後、姑が新婦を連れて近所へあいさつに回る時のあいさつ

1. 結婚式後、姑が新婦を連れて近所の家を回る時の、姑のあいさつ

○コノタビ 〇〇オ モライマシタケー カワイガッテ ヤッテ  
ツカンセー。この度、〇〇をもらいましたから、かわいがってや  
ってくださいませ。(初老女→同 試演) <改まり・上待遇>

補注 その折、手みやげとして、タオルやハンカチのセットなどを  
持っていく。

2. それに応える、近所の人へのあいさつ

○マー エー ヨメサンオ モラワレマシタ ナー。コッチモ ナ  
カヨー シテ ツカンセー。まあ、いいお嫁さんをもらわれました  
たねえ。こちらも仲よくしてくださいませ。(初老女→同 試  
演) <改まり・上待遇>

3. 姑が、新婦を連れての宮参りの途次、たまたま出会った近所の人へ、  
姑がするあいさつ

○コンド ウチニ キマシタ ヨメサンオ ウジコニ シテ モラ  
↑  
イマシタケ ナー。カワイガッテ ヤッテ ツカンセー。今度  
家に来ました嫁さんを、氏子にして貰いましたからねえ。かわ  
いがってってくださいませ。(初老女→同 試演) <やや改  
まり・上待遇>

○ソリヤー ヨー ゴザンシタ ナー。マー エー ヨメサンデス  
↓  
ナー。それは、ようございましたねえ。まあ、いい嫁さんです

え。(初老女→同 試演) <やや改まり・上待遇>

## VI 嫁を迎えた家の人へのお祝いのあいさつ

1. 10日ほど前に、長男に嫁をもらった60歳代の父親へ、結婚式に招かれた50歳代の女性が、昼下がりの路上でするあいさつ

○ コノ<sup>ニ</sup>タビ<sup>ャー</sup> ホン<sup>ニ</sup> オメ<sup>デ</sup>ト<sup>ー</sup> ゴザ<sup>ン</sup>シ<sup>タ</sup> ナ<sup>ー</sup>。オゴ<sup>ッ</sup>ツォ<sup>ー</sup>ニ ナリ<sup>マ</sup>シ<sup>テ</sup>。ホン<sup>ニ</sup> セ<sup>ー</sup>ダイ<sup>デ</sup>シ<sup>タ</sup> ナ<sup>ー</sup>。アン<sup>ナ</sup>オ<sup>タ</sup>イ<sup>ギ</sup>ナ コト サ<sup>レ</sup>ーデ<sup>モ</sup> ヨ<sup>ー</sup> ゴザ<sup>ン</sup>シ<sup>タ</sup>ニ。この度はほんとうに、おめでとうございますねえ。ご馳走になりました。ほんとうに盛大な結婚式でしたねえ。あのような、お大儀(結構な引出もの)をなさらなくてもようございましたのに。  
(初老女→老男 試演) <改まり・上待遇>

2. 父親が、それに応えてするあいさつ

○ マ<sup>ー</sup> イ<sup>ワ</sup>ッ<sup>テ</sup> モ<sup>ラ</sup>ッ<sup>テ</sup> ス<sup>ミ</sup>マ<sup>セ</sup>ナ<sup>ン</sup>ダ ナ<sup>ー</sup>。ミン<sup>ナ</sup>カ<sup>ラ</sup> オ<sup>タ</sup>イ<sup>ギ</sup> シ<sup>テ</sup> モ<sup>ラ</sup>イ<sup>マ</sup>シ<sup>テ</sup> ナ<sup>ー</sup>。ホン<sup>ニ</sup>。アリ<sup>ガ</sup>ト<sup>ー</sup> ゴザ<sup>ン</sup>シ<sup>タ</sup>。まあほんとうに、祝っていただいてすみませんでしたねえ。皆さんからお大儀(過分の祝い金)をいただいてねえ。ほんとうに。ありがとうございます。(老男→初老女 試演) <やや改まり・上待遇>

○ イロ<sup>イ</sup>ロ<sup>ト</sup> ホン<sup>ニ</sup> エ<sup>ラ</sup>イ<sup>メ</sup> サ<sup>レ</sup>マ<sup>シ</sup>タ<sup>ケ</sup>ド エ<sup>ー</sup> ヨ<sup>メ</sup>サン<sup>デ</sup> ヨ<sup>ー</sup> ゴザ<sup>ン</sup>シ<sup>タ</sup> ナ<sup>ー</sup>。あれこれと、ほんとうに、ご苦労なさいましたけど、いいお嫁さんで、ようございましたねえ。(初老女→老男 試演) <改まり・上待遇>

○ マ<sup>ー</sup> ブ<sup>ジ</sup>ニ ス<sup>マ</sup>セ<sup>テ</sup> イ<sup>タ</sup>ダイ<sup>テ</sup> ク<sup>ツ</sup>ロ<sup>ギ</sup>マ<sup>シ</sup>タ。マ<sup>ー</sup>カ<sup>ワ</sup>イ<sup>ガ</sup>ッ<sup>テ</sup> ツ<sup>カ</sup>ン<sup>セ</sup>ー。まあほんとうに、無事にすませていただいて、一安心しました。まあ、かわいがって下さい。  
(老男→初老女 試演) <やや改まり・上待遇>

## VII 結婚式後の仲人へのあいさつ

1. 結婚式後、仲人のところへ、新郎・新婦と両親とが、お礼に行った時のあいさつ(新郎の父親があいさつする)

○ コ<sup>ン</sup>タ<sup>ビ</sup>ワ オ<sup>セ</sup>ワ<sup>ニ</sup> ナリ<sup>マ</sup>シ<sup>テ</sup> アリ<sup>ガ</sup>ト<sup>ー</sup> ゴザ<sup>ン</sup>シ<sup>タ</sup>。ア<sup>ノ</sup> コ<sup>リ</sup>ャ<sup>ー</sup> ホン<sup>ノ</sup> コ<sup>コ</sup>ロ<sup>モ</sup>チ<sup>デ</sup>ス<sup>ケ</sup>ー ト<sup>ツ</sup>ト<sup>ッ</sup>テ ツ<sup>カ</sup>ン<sup>セ</sup>ー。この度はお世話になりまして、ありがとうございます

た。あのこれは、ほんのお礼の気持ちですから、納めておいて  
くださいませ。(初老男→老男 試演) <改まり・上待遇>

2. 仲人が、それに応えてするあいさつ

○マ<sup>ー</sup> コリ<sup>ャ</sup>ー スミマセンダ<sup>ッ</sup>タ ナ<sup>ー</sup>。コンナ コト<sup>ー</sup> シ  
テ モラオ<sup>ー</sup>トモ<sup>ッ</sup>テ オセ<sup>ワ</sup>ー シタン<sup>ジ</sup>ャー ナエ<sup>デ</sup>スケ<sup>ド</sup>  
セ<sup>ッ</sup>カ<sup>ク</sup> オイ<sup>ワイ</sup>オ<sup>ー</sup> モ<sup>ッ</sup>テ キ<sup>テ</sup> モラ<sup>ッ</sup>テ カ<sup>エ</sup>ス<sup>ノ</sup>モ  
ワ<sup>リ</sup>ー<sup>デ</sup>ス<sup>ケ</sup>ー イ<sup>タ</sup>ダ<sup>キ</sup>マ<sup>シ</sup>ョ<sup>ー</sup> カ<sup>ナ</sup>ー。アリ<sup>ガ</sup>ト<sup>ー</sup> ゴ<sup>ザ</sup>  
ン<sup>シ</sup>タ。まあこれは、すみませんでしたねえ。こんなことをして  
もらおうと思ってお世話をしたんではないですけど、せっか  
くお祝いを持って来てもらって、お返しするのも悪いですから  
いただきますよねえ。ありがとうございました。(老男→  
初老男 試演) <改まり・上待遇>

補注 以前は、仲人へのあいさつとして、新郎新婦と双方の両親が  
そろって出向いた。お礼として、反物一反を持参するのを常とし  
た。現在は、新郎新婦二人だけの場合が多い。

VIII 嫁のはじめての里帰りのあいさつ

1. 嫁がはじめて里帰りする時、嫁ぎ先の親にするあいさつ

○ナ<sup>ー</sup> イ<sup>キ</sup>テ キ<sup>マ</sup>ス。では、行って来ます。(青年女→初老女  
試演) <全年層・上～中待遇>

2. 両親が、それに応えてするあいさつ

○オ<sup>ト</sup>ー<sup>サ</sup>ン<sup>ヤ</sup> オ<sup>カ</sup>ー<sup>サ</sup>ン<sup>ニ</sup> ヨ<sup>ロ</sup>シ<sup>ユ</sup>ー イ<sup>ッ</sup>テ ク<sup>ダ</sup>サイ  
エ。お父さんやお母さんによろしゅう言って下さいよ。(初老女  
→青年女 試演) <全年層・上～中待遇・親しみ>

補注 里帰りをヒザナオシ(膝直し)と言う。これは、あるいは、  
窮屈な儀式からの開放——膝を気楽に伸ばす——を言うものか。  
この時は、紅白の餅を持って行き、近所に配る。以前は、新郎の  
親が、餅を持っていっしょに行っていた。

3. 里帰りの時、実家の親がする、近所へのあいさつ

○キ<sup>ョ</sup>ー<sup>ワ</sup> ○○<sup>ガ</sup> ヒ<sup>ザ</sup>ナ<sup>オ</sup>シ<sup>ニ</sup> キ<sup>マ</sup>シ<sup>タ</sup>ケ<sup>ー</sup> コ<sup>レ</sup>オ<sup>ー</sup> タ<sup>バ</sup>  
テ ツ<sup>カ</sup>ン<sup>セ</sup>ー。今日は○○が、膝直しに来ましたから、これを  
食べて下さい。(初老女→同 試演) <改まり・上待遇>

おわりに

岩美町新井の「祝言のあいさつ」も、一般がそうであるように、定型化・形式化したものである。「オメデトー ……」←→「アリガトー ……」が基調であるのは当然であるが、なお、いくつかの類型が注意される。

「オヒガラガ ヨロシク ……」は、大安吉日をよしとする、日本人一般の心情が基底にあり、祝言必須の文言である。また、天候に関しても、晴天であれば「イー テンキデ ……」と、これを慶び、雨天であれば「アメ フッテ ジガ カタマル ……」と、これまた、吉に転じて心情を晴らす。

近所の人、嫁をもらう側に対しては「ニギヤコー ナラレル ……」と祝意を表し、出す側に対しては「サビシ ナラレル ……」と、親の心情を慰める。この言いかたも、類型化したもののようであるが、両家の心的状態をよく表していよう。近所の人へ対しては、もらう側が「カワイガッテ ……」と言って、新しい家人を気遣い、出す側が「クツログ ……」と強がって、親の寂しさをまぎらわす。それぞれに惜味が深い。

格式を示す語に、漢語の「オタイギ」（お大儀）があり、生活を匂わす語に、和語の「ヒザナオシ」（膝直し）がある。前者は、かしこまって、祝意の尋常ならざるさまを言い、後者は、気をゆるめて、里帰りのなごやかなさまを言う。いずれにも、祝言儀礼の伝統のなかで、形式と内面とを支えてきた生活の息づかいが、よく表れていよう。

なお、今日では、「祝言」も「結婚式」となり、画一の都会ふうへと、さまがわりが進みつつある。

（兵庫教育大学教授）